

文・写真 松澤美穂

地方 紀民 行鉄

嵯峨野観光鉄道株式会社



テーマパーク京都・嵐山エリアは、今日も観光客で大賑わい。人波押し寄せる景色に疲れたら、人気アトラクション「トロッコ列車」にぜひ。嵯峨嵐山のもう一つの顔、静かで豊かな自然を堪能できます。

昨 今、うなぎ上りの京都人気。知っているつもりだったけれど、認識が甘かったらしい。時刻は午前10時すぎ。京都駅からJR嵯峨野線に乗り継いで嵯峨嵐山駅まで。着くなり向かった、隣接する嵯峨野トロッコ列車、トロッコ嵯峨駅の乗車券売り場は、すでに行列。

乗車券は、どう買う？

嵐山・嵯峨野を走る嵯峨野トロッコ列車は全席指定。乗車券は当日購入もできるけれど、乗車予定の1カ月前から前売りも購入できる。紅葉にはちよっと時期が早い平日。当日購入でも大丈夫だろうと思っただけ、念のため、トロッコ嵯峨駅からトロッコ亀岡駅まで、片道分の乗車券は購入済み。

それでも真つ先に、トロッコ列車の乗車券売り場に赴いたのは、窓ガラスのないフルオープンの特等車両、リッチ号の乗車券が当日販売のみだから。前売りで購入した乗車券も、当日窓口に行けば、先着順でリッチ号の乗車券に交換してもらえる。せっかくトロッコ列車に乗るのなら、景色が良く見えそうなリッチ号に乗りたい。

リッチ号への交換を目的に、乗車時間の2時間近く前にもかかわらず駅に立ち寄ってみたのだけれど、来てみて正解。直近の列車の乗車券は、すでに「立席券」のみ。1時間に1本のペースで運行されるトロッコ列車。1時間後、2時間後の列車を予約している観光客も多い様子。2時間後のリッチ号の乗車券は入手できるか。慌てて乗車券売り場の行列

に参戦。

とはいえ、リッチ号の乗車券に交換できなかったとしても、トロッコ亀岡駅までの乗車券はある。ただ、亀岡駅に着いてから先のことは、まったく決めてこなかった。嵯峨野観光鉄道の担当者さんによると、亀岡駅に着いた乗客の行動は、①トロッコ列車で戻ってくる、②保津川を船で下って戻ってくる、③亀岡市の湯の花温泉などに向かう、という大体三つのパターンに分けられるとか。乗車券売り場の行列からすると、トロッコ列車で戻ってくるのなら、事前に乗車券を買っておく必要がありそう。さて、どうしよう。

今回は、嵐山観光をしたいので、選択肢は①か②。保津川下りも魅力的だなとホームページを確認したら、天候の影響で本日、運中止。ということで、トロッコ列車で戻ってくることに決定。販売員の方に、亀岡駅からの戻りの乗車券と、行きの乗車券のリッチ号への交換をドキドキしながら申し出る。

「リッチ号への交換、大丈夫ですよ。ただ、戻りの列車は普通車両になります」。リッチ号の乗車券と戻りの乗車券、どちらも無事、入手完了。

さすがは、京都・嵐山

まだまだ絶えない乗車券売り場の行列を後に、乗車時間まで嵐山を散策。見所の多い嵐山、観光スポットは無数にあるけれど、ひとまず名刹・天龍寺を目指す。歩くにつれ、進むにつれて、どんどん人が増えていく。個人旅行に団体旅行、修学旅



乗車券売り場には、観光客の長い列。



桜の季節には、こんな景色の中を走る。

嵯峨野トロッコ列車

【さがのとろっこれっしゃ】

嵯峨野、保津川峡谷の景色を楽しめる観光鉄道。トロッコ嵯峨駅からトロッコ亀岡駅まで、総延長7.3kmを25分で結ぶ。



トロッコ乗車券売場	
Romantic Train ticket counter 温泉小丸乗車券売場	
トロッコ列車のご案内	
乗車券の発売時間	乗車券の発売場所
12月12日 12:01 湯野 → 12:29 湯野	12月13日 13:01 立寄寺 → 13:29 湯野
12月14日 14:01 湯野 → 14:29 湯野	12月15日 15:01 湯野 → 15:29 湯野



トロッコ列車は満員御礼。



天龍寺（下）に竹林の道（上）、どこもかしこも人で一杯。

列車の発車時刻まで約30分。戻ってきたトロッコ嵯峨駅には相変わらずの行列。乗車券の販売状況を見ると、乗車予定の列車は行きも戻りもすでに満席、さらに1時間後の列車でも立席券のみ。こちらも大変な人気ぶり。乗車券売り場の混雑を横目に、いよいよトロッコ列車に乗車。列に並んで入手したリッチ号の車内は、欧米からのお客様が約2割、残り8割近くはアジア系で、車内の会話は外

人気アトラクション「トロッコ列車」

さすがは京都、嵐山。観光地としての吸引力を目的の当たりにしたところで、少し早いけれどトロッコ嵯峨駅に戻る。

たくさんの人が地図を片手に楽しそうに歩き回る光景は、某人気テーマパークさながら。違いといえば、こちらの方が圧倒的に海外からのお客様が多いということ。修学旅行の学生たちを除けば、過半数どころか、もしかしたら8割以上が外国人観光客ではないかと思うほど、飛び交う言語が実にさまざま。どこよりも日本らしい景色の中、視界に入るすべての人が外国人になる瞬間もあって、なんだか不思議な気分になる。

行、天龍寺の前を通過して渡月橋につながる道は、土産物屋や飲食店が連なっていることもあり、人で溢れかえっている。当然、天龍寺も大賑わい。総門をくぐり、参拝受付まで向かったものの、黒山の人だかり。人波に圧倒されてきびすを返し、渡月橋に向かってみれば、橋の上も川原も記念撮影する人々で一杯。

田園地帯の真ん中にある亀岡駅には、「どこからこんなに」と思うほどたくさんの方が列をなして列車の到着を待っている。戻りの方の乗車券も買っておいて、本当によかった。京都・嵐山がテーマパークならば、トロッコ列車は行列必至の人気アトラクションといったところだ。

テemapark京都・嵐山エリア。アトラクション「トロッコ列車」は、平日・休日、季節を問わず大人気。確実な乗車をご希望の方は、早めのご予約をお勧めします。

沿線の紅葉は、やっぱりまだまだ緑色。色づきを促すには、少しもの足りない柔らかかな風は、寒さを感じずに景色を楽しむにはちょうど良い。窓ガラスのないリッチ号は、天井がガラス張りで見晴らし最高。車内に吹き込む風は爽やかだし、光も一杯差し込んでくる人もいるけれど、いったん、トロッコが動き出したら、車窓の景色は乗客だけのもの。たくさんさんの観光客が行き来する賑やかな嵐山とは全く異なる、山と川の静かな景色を楽しむこと約25分、終点・亀岡駅が見えてくる。

国語が圧倒的優勢。話の内容は分からないけれど、車窓の景色に期待を高めているのは、何となく感じられる。

トロッコ列車はトロッコ嵐山駅までは主に住宅地を走り、嵐山駅を出て、トンネルを抜けたところで初めて保津川の景色が広がる。車窓に広がった保津川の景色に、「わあ」「ああ」というため息のような歓声が響く。言葉はそれぞれ違っても、感動した時の第一声は万国共通のものらしい。



亀岡駅は、乗る人と降りる人とで大混雑。



列車は保津川沿いを走る。沿線の紅葉の見所はまだまだ緑色。



リッチ号は天井もガラス張り。景色が良く見える。